

第3号様式（第4条第1項）

令和6年3月29日

君津市議会議長 小 倉 靖 幸 様

教育福祉常任委員長 高 橋 健 治

行政視察結果報告書

君津市議会行政視察取扱要綱第4条第1項の規定により、次のとおり報告書を提出します。

記

- 1 期 日 令和6年1月22日（月）から
令和6年1月23日（火）まで
- 2 視 察 先
 - (1) ろりぽっぷ小学校（仙台市）
 - (2) 栃木県下野市
- 3 調査事項
 - (1) 不登校特例校について
 - (2) 石橋複合施設について
- 4 参加議員 高橋 健治、鶴岡 一成、小倉 靖幸、満武 琢也、
大和 ヒロシ、大滝 浩介、保坂 好一
- 5 経 費 別紙のとおり

別紙

教育福祉常任委員会 行政視察経費

①宿泊日当	123,900 円
（宿泊 11,700 円×1 泊+3,000 円×2 日）×7 人	
②高速バス料金（1,600 円×往復×7 人）※回数券使用	18,400 円
③鉄道運賃・料金（21,120 円×7 人）	147,840 円
④ジャンボタクシー	48,800 円
⑥視察先手土産代(4,230 円×2 か所)	8,460 円
⑦視察資料代（3,500 円×1 か所×7 人）	24,500 円
⑧車賃	3,960 円
<u>合 計</u>	<u>375,860 円</u>

ろりぽっぷ小学校

日時：令和6年1月22日（月）午後1時00分から午後3時00分

場所：ろりぽっぷ小学校（宮城県仙台市太白区）

出席者：ろりぽっぷ小学校 校長、教頭

1 ろりぽっぷ小学校の概要

全国的に不登校児童が増えている中、宮城県仙台市は全国的にも不登校の児童・生徒の割合が多く、全国の政令指定都市の中でもいじめの認知件数が多い都市となっている。

国では、子ども一人ひとりの実情に配慮して学習指導要領にとらわれず教育課程を柔軟に構成できる学びの場として「学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）」の設置を進めている。

令和5年4月、仙台市で初の学びの多様化学校「ろりぽっぷ小学校」が開校した。運営は学校法人ろりぽっぷ学園で、私立の小学校となる。校舎は平成27年に閉校した仙台市立坪沼小学校の校舎を借り受けて運用している。



ろりぽっぷ小学校校舎（旧仙台市立坪沼小学校）

2. 調査事項について

「不登校特例校について」

(1) 事業概要

ろりぽっぷ学園の保育理念・教育理念として「大人も子どもも育ちあう学園を目指して子供の心に寄り添う保育」を掲げている。

同校では、ドイツで始まりオランダで取り組まれているイエナプラン教育のコンセプトを活用し、対話・遊び・仕事・催しの4つの教育特徴を活用して学校生活の基本活動を循環できるよう学習プランが組まれている。

現在、小学校の在籍人数は26名、入学にあたっての学力試験は行わず、学校の学びが合っているかを判断するための面接等の入学検定を行っている。

①具体的な取組について

- ・イエナプラン教育では子供たちが学ぶ教室は「リビングのような空間」であるべきとされており、ろりぽっぷ小学校は教室と廊下の仕切りがなくどの部屋も開放的で子供たちが安心して、楽しく学習できる環境となっている。
- ・学級編成を異年齢（1～3年生、4～6年生）で構成し、周囲と比べることなく学年に関係なく一人ひとりに合わせた学習ができるよう配慮されている。
- ・学習内容を「自己選択・自己決定・自己対応」できるように配慮し、興味・関心のある学習内容から活用し、得意とする学び方で学びの場を設定する。実際に視察日は、教室にて子供たちが自ら決めた学習プランに沿って当日に学習内容を選択し、学習していた。体育館では、選択アクティブタイムとして学年に関係なく子どもたちが体育を実施していた。

(写真：1～3年生が自ら設定した時間割表)



- ・保護者が使用できる部屋が学校内にあり、リモートワークをしながら子供とふれあうことができ、教師と保護者がいつでも話し合いができるようになっている。

- ・「人間・キャリア科」という児童生徒のコミュニケーション能力の向上を図る事を目的とした科が新設され、その中で親の会もあり児童に悩む保護者との支援も行えるようになっていた。
- ・交流と体験活動の一環として、地域の方を学校職員として採用し、地域の自然を生かした活動（収穫祭・農業体験・流しそうめんなど）を通して地域と児童、保護者の交流が行われていた。
- ・今後の課題としては、児童の授業料が6万円を超えるため、通い続けるのに金銭的に厳しいという保護者の声・家庭があること。事業開始から現在に至るまでに5千万円の赤字経営となっているため、今後の支援・資金調達に課題があることなどが挙げられていた。子供たちについての今後の課題としては、卒業を迎える6年生児童の進路についてどうするのかなど、子供たち一人ひとりの学びをどう保障するかが今後の課題とのこと。



明るく開放的な校内

(2) 質疑

Q：学校スタッフとして勤務されている地域の方の役割について

A：バス運転手や技師として採用しており、地域に開かれた学校のつなぎ役を担っている。

Q：日課表などの教育課程について。

A：1～3年生はやりたいことを尊重し、日課表を自ら決めるようにしている。

ただし、科目によって時間数が決まっているため、何度も同じ授業はできない。

4～6年生は日課表に沿って実施。5教科の時間数は公立学校と同じとなっている。

Q：校外学習の特色について

A：内容は他の小学校と同じような内容であるが、スケジュールや予算については児童が自ら計画を立て、それを保護者にプレゼンテーションする取組を行っている。

(3) 所感

- ・現在の在校生で学校が合わず不登校になっている子はいないということで、この学び舎が子供たちにとって過ごしやすい場所であることがわかった。また、開放的な校舎で校舎内は教室と廊下の仕切りがなく、子供たちがのびのびと学習している雰囲気を感じた。
- ・全国的な不登校児童の増加が問題となっている中、学校と児童だけの問題だけではなく保護者と子の関係性をどのようにこの学園が捉え、向き合っているのかが気になる点であったが、保護者の部屋を設けいつでも子供に触れ合える点、リモートワークをしながら子供と一緒に空間に入れること、定期的な面談により子育てに悩む保護者とともに子供の成長の方向性を確認していることに安心した。
- ・学校へ行くことのできない児童にとって、学校に行くことは本当に大変なことである。学校へ行けない児童は少数派なため、学校に行けないことが悪いことであるかのように捉えられてしまっているように思う。まずはその認識をどうにかしなければならぬのかもしれない。
- ・校外学習の内容について質問をしたところ、スケジュールや予算は児童が決め、保護者にプレゼンテーションを行っているとの回答に驚くとともに、小学生の持つ可能性や能力を低く見てしまっていた自分に反省をした。
- ・社会で活躍する、どんな社会でも切り開く人財と、人とのコミュニケーション、協調性を子どもたちが高めることを意識されていた。

・君津市としても、不登校児童に対する取組強化は必須であり、現在、様々な理由で学校に行けない児童生徒への学校・社会復帰への学びの場所としてきみつメイトがあるが、ろりぽっぷ小学校のような不登校特例校はない。今後、不登校児童の教育・学びの場として、時代に合った事業に取り組んでいく必要があると感じた。



栃木県下野市

日 時：令和 6 年 1 月 2 3 日（火）午前 9 時 4 5 分から午前 1 1 時 5 0 分

場 所：下野市役所・石橋複合施設

出席者：

下野市議会 議長、課長

生涯学習文化課 課長

1 下野市の概要 （ ）内は君津市

人口：59,880 人（80,448 人）

面積：74.59 km²（318.78 km²）

一般会計 263 億円（360 億 6,000 万円）

議員定数：18 名（22 名）

下野市は、関東平野の北部、栃木県の中南部に位置し、都心から約 85 k m 圏にあり、首都圏の一端を構成している。2006 年（平成 18 年）に河内郡南河内町と下都賀郡国分寺町、石橋町が合併し発足。歴史は 7 世紀の終わり頃日本三戒壇の一つである下野薬師寺が建立され、8 世紀には聖武天皇の命により下野国分寺・国分尼寺が建立され、古代東国地方の仏教文化の中心地として栄えた。

現在は、地域医療が充実したまちとして、人口 1 人当たりの医師数が全国トップクラスで、安心して暮らせる街となっている。また、かんぴょうの名産地として知られ、その生産量は全国の約 53%を誇っている。

2 調査事項について

「石橋複合施設について」

（1）事業の経緯

下野市では、公共施設の老朽化が課題となっており、平成 29 年 3 月に「下野市公共施設等総合管理計画」が策定された。その中で、築 56 年を超える石橋公民館の老朽化や児童館の基準を満たしていない子供広場いしばしなどの対応は急務となっていた。さらに、市の立地適正化計画では、石橋駅周辺のコンパクトシティの形成を目指すことが示され、平成 30 年 3 月策定の「都市再構築プラン」

の中で、石橋総合病院跡地に公民館と児童館の複合施設を整備することとなった。



石橋公民館のエントランス

（２）事業の概要

- ・令和元年７月ごろより要求水準書等の検討を開始、令和２年１月に要求水準書等の公表、９月に事業契約の締結を行った。
- ・要求水準書の作成にあたり、施設の内容等について、市民とのワークショップ等で利用者の意見を聞きながら進めた。
- ・要求水準書の作成においては、利用者からのヒアリングとともに、利用者同士の対話も必要と考える。ただし、事業者のハードルを上げすぎないように注意が必要。
- ・デザインビルド方式（設計施工一括発注）を導入することで、建設期間を短縮でき、材料費高騰の影響低減にも寄与したと考えられる。

（３）現在の利用状況

- ・余剰地の活用として、民間の提案により民間資金でドラッグストアを建設。また、フードショップが併設されており、買い物と公民館の利用が結び付いて利用が増加。地域から親しまれ、賑わいのある施設となっている。
- ・公民館には１階に音楽スタジオ・パフォーマンススタジオが設置されている。旧公民館にはない施設であり、利用者からの意見等をもとに設置した。２階には学習スペースがあり、仕切りを取ると 200 人程度が入れる部屋となる。20 歳の集い会場としても使用した。
- ・児童館では、0 歳から 18 歳未満の方が活動できる集会室を児童館内に設け、未就学児と保護者だけではなく、地域の交流の場として活用されていた。実際に視察日は、7 組程度の保護者とお子さんが利用されており、この施設の利用しやすさを感じた。
- ・児童館と公民館の職員室は同じになっており、職員間の連携が図られている。

３ 質疑

Q：施設の建設費と国・県からの補助金の活用状況について。

A：総事業費は約 13 億 1,500 万円。都市構造再編集中支援事業補助金を活用している。

Q：既存施設ではなく、複合施設で新たに設けた設備について。

A：公民館においては、音楽スタジオやパフォーマンススタジオ、学習室など。児童館は、これまで遊戯室しかなかったものを拡充し、遊戯室、集会室、図書室、相談室、創作活動室等を設けた。授乳室は公民館との共用スペースに設けられており、どちらからでも使用可能となっている。

Q：複合施設開館前後の利用者の状況について。

A：公民館については、収容定員は旧館の 1.4 倍になっている。利用人数は延べ人数で 2.1 倍。児童館については、複合化前は約 2 千人だった利用者が約 1 万人となっており、中高生の利用も増加している。児童館の利用者増加については、新型コロナウイルス流行による利用制限の撤廃なども影響しているとみられる。

Q：施設複合化のメリットについて。

A：高齢世代、子育て世代、地域の方々など、様々な世代の方に児童館や公民館を知ってもらうことができた。公民館に学習に来た中高生が児童館に立ち寄り、公民館の講座を受けた親子が児童館で遊んでいくなど、利用者の増加につながっており、相乗効果がみられている。



石橋児童館の館内

4 所感

- ・石橋複合施設はドラッグストアを併設することにより誰もが通いやすく身近に感じる施設にしたこと。そして、音楽スタジオやフードショップを作るなど時代のニーズに適応した施設になっていると感じた。
- ・利用状況については、学習室・フリースペースの中高生の利用が多く、利用者は令和4年に比べて4倍近くにまでなっており、この施設の使用しやすさを感じた。視察日もパフォーマンススタジオ、エントランスでの展示、児童館などを利用する方々が多く、地域の交流の場となっていた。
- ・今後の公民館の再整備を行うにあたっては、石橋複合施設のようにニーズと地域性を生かした施設にする必要があると感じた。